

ごみ減量・リサイクル通信

【発行・編集】伊達市役所 生活環境課 環境係 電話:024-575-1228

伊達市の家庭から出る燃やせるごみの中には、多くの水分が含まれています。要因として、水分を多く含んだ生ごみが排出されていることが考えられます。水分が多く含まれたごみは、燃やすのに多くのエネルギーを必要とするため、環境にも悪影響を及ぼします。

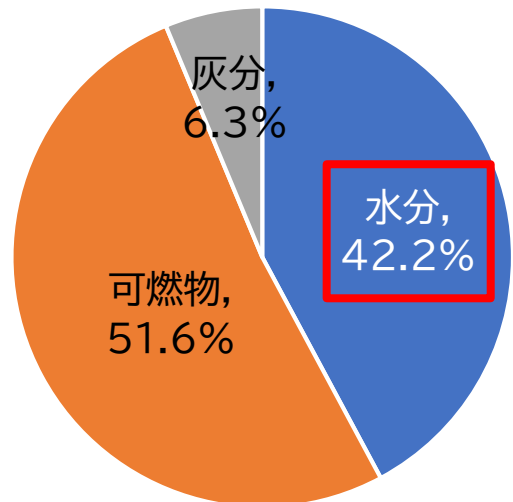
今回は家庭でできる生ごみ減量法として、ダンボール箱を使った生ごみの堆肥化をご紹介します。

「燃やせるごみ」のうち約42%が水分

生ごみを捨てる前に一手間！

「水切り」をしよう！

水を絞ってから捨てることで、
ごみの重さが減り、ごみ減量につながります。



伊達地方衛生処理組合「組成分析結果
(平成28年度～令和5年度の平均)」より

家庭でできる！ダンボール箱を利用した堆肥の作り方

必要なもの

- ☐ダンボール(10kgみかん箱程度のもの)
- ☐腐葉土(5kg) ☐米ぬか(3kg)
- ☐ガムテープ ☐新聞紙
- ☐スコップ ☐布
- ☐すのこ板、かごなど
(ダンボールを乗せる台として使います)

あると便利なもの

- ☐温度計
- ☐はかり



1. ダンボール容器を作る

- ①ダンボール箱のふたを立て、四つ角の内外と、底をガムテープで補強します。
- ②底に新聞紙 1 日分を厚めに敷きます。
- ③薄いダンボールは二箱重ねましょう。



2. 床をつくる

腐葉土と米ぬかを 5 対 3 の割合で箱に入れて良く混ぜます。腐葉土と米ぬかを交互に入れると混ぜやすくなります。

3. 生ごみを入れる

- ①スコップで床に穴を掘り、「水切りした生ごみ」と「米ぬか」を混ぜたものを1日500g 程度を目安に投入してください。
- ②余分な水分を吸わせるために、床の上から新聞紙を乗せるように被せます。
- ③酸素を行き渡らせ、生ごみの分解を助けるため、1日1回は空気を入れながら混ぜましょう。

発酵してくると床内の温度が50℃程度になります。



○分解しやすいもの
米ぬか、廃食用油、魚のあら、肉、コーヒー殻など

×分解されないもの
貝殻、玉ねぎの皮、卵の殻、とうもろこしの芯など

4. ダンボール箱の設置

- ①雨が当たらず、風通しと日当たりの良い軒下やベランダに設置しましょう。
- ②冬場は凍らないよう、室内に入れます。
- ③通気性をよくするために、すのこ板やかごの上に乘せます。
- ④虫が入らないように布をかけ、ストッキング等で止めると効果的です。



5. 生ごみ投入終了

生ごみを入れ続けて、約3ヵ月、堆肥化のスピードが落ち、かき混ぜて「ダマ」の量が多くなった頃が投入終了の目安です。

6. 熟成

- ①新しいダンボール容器を用意して、床を半分移し、次の床として使います。
- ②残った床は、ふたをし、時々水を入れながら熟成させます。
- ③熱が出なくなったら発酵終了、堆肥の完成です。
- ④完成した堆肥は、畑にまいて肥料にする、作物の根元におく、苗床やプランターなどにご利用ください。

ポイント

●温度が上がらない場合

約1週間すると少しずつ温度が上がっていきます。
水分が足りないと熱が出ないので、米のとぎ汁、水などを加えてかき混ぜましょう。
ちょうど良い水気は、手で床を握って、開いたときに形が少し残るくらいです。
食用油(200cc)や米ぬか(1握り程度)を入れるのも効果的です。

●入れたものが分解しない場合

生ごみはできるだけ早く・細かく・水を切って入れます。
小さくするほど分解が早まります。



生ごみ処理の方法はこの他にもたくさんあります。
一度挑戦していただき、各家庭にあわせて工夫してみてください。